

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他ユニット、併設した小規模多機能型居宅介護との交流が楽しめるよう支援、ボランティアによるカラオケ、メーク、傾聴等に参加し楽しめている。また季節ごとの行事や近隣への買い物、散歩、地域のお祭り等、天候に応じ希望に添った支援ができるように、理念でもある利用者様がいつも「毎日元気に笑顔のある生活」を送ることができるよう努力をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり新中野」は、幹線道路のバス停留所から300mの距離にあり、近隣に徒歩で利用できる公園や商店などのある地域に2010年に指定を受け開設した事業所である。2階建ての2ユニットで、現在17名の利用者が職員と共に生活をしている。共用空間及び居室は十分な広さがあり、大きい窓から入る日差しや整理整頓された清潔感のある住まいは、落ち着いて過ごすことのできる環境である。前回の外部評価受審後に作成した目標達成計画には真摯に取り組み、3項目全てを達成している。「地域のぬくもりの中で、いつも元気に笑顔のある生活を支援し続けます」という理念に基づき、毎日ラジオ体操をしたり、トレーニングマシンを使って足の筋肉を鍛えるなどの健康維持に力を入れている。管理者は、「グループホームは、家族と一緒に本人の生活を支える場所」であることを念頭に、職員と共にケアサービスを展開している。家族や職員の支援を受けながら、利用者全員が入居前から通院していたかかりつけ医を継続している。職員は入社3か月後に本社にて研修を受け、「利用者はおお客様です」という指導の下、敬意を込めた言葉遣い、挨拶ができる礼儀正しい接遇の技術を身につけている。

V. サービスの成果に関する項目(はすかっぱ館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にいつも元気に笑顔のある生活を送ることができるよう会議等でも話し合い、意識を共有しサービスの向上に努めている。	理念はパンフレットに記載し、1・2階の事務所にも掲示している。元気に暮らせるようラジオ体操やリハビリ体操をケアプランに位置づけ実践している。今後は理念の文章を拡大し、フロアーにも掲示する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のお祭り等に参加している。町内会からもホームのお祭りや防災訓練等に協力頂き、交流に努めている。	運営推進会議にて町内の夏祭りの情報を収集し、参加している。事業所主催の夏祭りでは、町内会からテントを借り家族や地域の人々と交流している。小学校・保育園との交流については、調整中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催。市職員、町内会、ご家族様に参加頂き、報告、話し合いを行ない意見、助言を得、サービスの向上に活かしている。	1月末の会議では、苫小牧消防3名が参加し防災訓練をしている。また、会議終了後は、家族と話し合う時間を設け、意見を把握する場ともなっている。他事業所と合同で開催しているので年間のテーマについては検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護福祉課へは運営に関しての相談を随時行っている。2ヶ月に1度の運営推進会議にも出席して頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。	2階の管理者が一時的に不在となったことがあり、その際の人員配置について管理者が直接苫小牧市の窓口を訪問して相談している。「RUN伴」のマラソンに市職員が参加した時には、応援グッズを作成し、利用者と一緒に国道まで出て応援をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は開錠している。また個々の状況に応じ、安全、安心に過ごすことができるよう生活環境の整備や見守りの強化で危険の防止に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	本社が作成した身体拘束をしないためのマニュアルが整備されている。そのマニュアルに「禁止の対象となる具体的な行為」の記載があり、その行為を事務所、更衣室に掲示している。職員は正しく理解しているが、内部研修は未実施のため今後実施していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で意見交換、情報の共有を行い、虐待が見逃されることのないよう取り組んでいる。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかっぱ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、全職員が理解しているとはいえないが必要性のある利用者様へアドバイスができるよう勉強会等を取り入れ理解を深めるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話にてご家族様の要望をお聞きし、意見を反映させていけるよう努めている。	意見箱・面会時・運営推進会議・介護サービス計画の見直し時などの機会をととして利用者、家族の意見を把握している。不穏時の安定剤の調整については家族や病院と相談し、その要望を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月1度の会議で意見交換を行っている。年2回管理者と職員の面談を行っている。	利用者の心身の状態に応じて日勤帯の休憩時間を変更する、転倒しやすい利用者に電動ベッドを導入する、広報や献立作成は固定せず順番に担当するなど、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者研修、定期的なスタッフ研修の他、法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や市のグループホーム連絡会の研修に参加し、交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかっぷ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の情報を基に生活歴の把握の努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様、ご家族様の状況を把握し意向を確認しながら適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に楽しみながら、ご本人様のやりたいこと、できることを見つけていくよう努め、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、運営推進議の呼びかけや面会時、電話、通信でホームの様子をお伝えし、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人が気軽に訪ねられようご家族様にもご協力頂き支援に努めている。	本人にとっての馴染みの場は、入居前に住んでいた自分の家や長年利用していた床屋などであり、家族がそのような場所への外出支援をしている。昔住んでいた近所の人が自転車で来訪することもある。	本人にとっての馴染みの場を把握し、その場に出かけることができるようにしたいとの意向があるのでその実現に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極め、その時々状況把握に努めている。孤立することがないよう時には職員が間に入り、支え合える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかっぱ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を送る等これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動、表情の中から個々の希望、意向を汲み取れるよう努めている。ご家族様、職員間の情報も取り入れ状況に応じながら対応している。	「～したい、～に行きたい、～に会いたい」などの本人との会話や表情から思いを把握している。その内容をケース記録に残し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からの情報やご本人様とのコミュニケーションを通し、これまでの生活習慣、馴染みの暮らし方が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等により一日の生活のリズムや心身の状態を観察し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、他職員、看護師からも意見を出してもらい定期的に話し合い、見直しを行っている。ご家族様からも意見、要望を頂き現状に即した介護計画作成に努めている。	センター方式と厚労省の課題分析の2種類の様式を使い本人の現状を把握している。3か月毎に見直しをし、介護計画とモニタリングは家族に説明して渡している。今後は、センター方式を中心とした介護計画を作成していく意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別の記録を整備、活用の他、日常の気付きを報告し合い、日々のケア、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう考慮し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。	全利用者が入居前からのかかりつけ医を継続している。かかりつけ医がいない場合は、協力医療機関を紹介している。家族から報告を受けた受診内容は、「受診記録」と「医療連絡ノート」に記録し共有している。	

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(はすかっぱ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。	終末期の迎え方について、家族がセンター方式のアセスメントシートに記入している場合もある。また、「どのような最期を迎えたいかご家族でお話していたことはありませんか？」と家族に訊ねることもあり、チームで本人本位の終末期の在り方を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。	運営推進会議と火災の避難訓練を同日に実施することで初めて町内会の参加を得ている。飲料水やクッキーなどの食料品を中心に備蓄品を用意している。地震対策は、今後の課題として検討していく予定である。	苫小牧は地震が多い地域のため、地震対策をしていくという意向なので、その実現に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声の大きさ、声掛けのタイミング、周囲の状況等に気を付け、個々に合わせた言葉掛け、対応に努めている。	入社3か月後に法人研修で接遇を学び、丁寧な言葉遣いで対応している。利用者を見守りながら記録をする時も、個人情報の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながらご本人様の思いを引き出せるよう努めている。自己決定を尊重し納得した生活ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを把握し、それぞれの希望に応じた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、着る服を自身で選んで頂いたりとその人らしさを大切に支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状況に応じ、食事の準備、後片付け等、それぞれに出来ることを職員と共に行っている。個々の好みを把握し食事を楽しめるよう工夫し支援している。	業者から届く食材を利用者と一緒に確認したり、新聞のチラシを見て料理の話題から食事が楽しめるように工夫している。献立に、さしみや炊き込みご飯など好みの料理を取り入れている。中庭でバーベキューや秋の味覚を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、把握している。個々の状態に合わせた形態、味付けに工夫し、摂取量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けし、本人の力に応じた口腔ケアを行い清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるよう記録し、トイレでの排泄を基本に考え一人ひとりに必要な支援を行っている。	個人記録で排泄パターンを把握し、その人に合わせて早めに声をかけている。声かけでトイレを嫌がる時は無理強いしないで、時間を置いたり、職員を代えるなどの工夫で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、声掛け等により確認、記録している。飲食物の工夫や運動等で個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。	日曜日を予備日にし、午後から一人週2～3回の入浴を行っている。身体的な理由で浴槽に入るのが難しい時は、家族と相談しながらシャワー浴で介助している。1階の天然温泉浴と2階のユニットバスに観葉植物を置き、心地よい環境で入浴が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、その時々状況に応じて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし職員が確認できるように整備している。服薬は職員2名での声出し確認を徹底、更にご本人様に声掛け確認し誤薬防止に努めている。服薬の症状の変化は記録し、職員間で情報把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせ役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。	公園での散歩や中庭で日光浴をしている。近くの店に出かけたり、大型ショッピングセンターで買い物をすることも。外食の他、去年は足湯に出かけている。冬季は感染症の心配もあり、受診に出かける程度になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。一部の方はご本人様、ご家族様と話し合いをし、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品を飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。	居間は大きな窓から陽が入り明るい。強い陽射しには暖色のロールカーテンを下し温かな雰囲気工夫している。トイレや洗面所は、それぞれの居室に近い3か所に配置し車いす対応になっている。数か所に加湿器を置き、温湿度を調整して心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、趣味を楽しんだり気の合った利用者同士で談笑できるよう席の配置を工夫、くつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇を含め、馴染みのものや使い慣れたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して心地よく過ごすことができるよう配慮している。	入り口に小さな飾りを付け、自室が分かるようにしている。室内には大型のクローゼットが設置され、馴染みの家具類や小物類が持ち込まれている。趣味を活かした手作りの整理箱や作品、家族の写真や縫いぐるみなど、その人の安心できる居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所に札を貼り危険がないよう配慮し安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成26年3月7日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念で掲げている「地域のぬくもりの中で、いつも元気に笑顔のある生活を支援し続けます。」に力をいれて取り組んでいます。又その他事業所目標や会社理念である「福祉三原則」「経営理念」を含め、4本の柱として、全職員が認識し日々業務に努めています。又昨年から、看護師の常駐により医療との連携も取れて入居者様の日々の健康状態を把握し、安心・安全な生活を支援できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ななかまど館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を共有し、実践に努め、いつも元気に元気に笑顔のある生活を支援する為に1日の挨拶から日々意識しながら取り組んでる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事に出席して頂いたり、町内での行事にも積極的に参加し、地域との繋がりが強くなってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回「みのり通信」を発行し、玄関の壁に掲示する事により、外部の方が閲覧出来る様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの取り組みに関する報告・情報公表・意見交換を行い、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に防災訓練を行い、町内会長や民生委員や市役所の方々と協力し実行出来、関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、ケア技術の向上や職員の意識改革、資質の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の尊厳の保持」「高齢者の権利利益を守る」を全職員が意識し防止に努めている。又研修にも積極的に参加し、不適切なケアに対する意識が希薄にならない様努めている。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内容を理解しているスタッフは少ないですが、機会があれば、研修等に積極的に参加し、理解を深めるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はまだ経験がなく、これからですが、入居者様や家族様に十分な説明が出来る様、日々努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心となり、御家族様が面会時に連絡や相談を行い、関係作りを行っています。緊急時は電話連絡し報告等も行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の声に耳を傾け、意見や要望を聴くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等に積極的に参加しています。又他職員にも研修の積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られているグループホーム連絡会を通じ、同業者との交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、本人の安心を確保し信頼関係を得る様努めている。又常日頃から入居者様の一つ一つの言葉を拾い、細やかな情報収集を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には、御家族様のお話を伺い、現状や要望を据え 一緒に最善策について話し合い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時には、本人様・御家族様に一つ一つの細かな情報収集を行い、ニーズを見極めながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、テレビを観たり、お話をすることで 入居者様が職員と共に生活しているという実感を持って頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から、積極的に御家族様とコミュニケーションを取るように心掛けてます。又本人様と御家族様の絆を大切にしながら、共に本人様を支えていく関係を目指としています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状では実現は難しいですが、今後少しでも実現に近づける様に努力している最中です。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が過ごせる環境作りをホーム・ユニット内で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係を大切にして相談や支援に努める。又当事業所が一番と思って頂ける様に日々業務に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のユニット会議で入居者様のニーズや行動、発した言葉をアセスメントし、意向の反映に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや御家族様の情報を頂き、細やかな情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や性格、現在の様子・状態・能力など入居者様の要望を把握する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、入居者様や御家族様と情報交換やコミュニケーションを図り、3ヶ月に1度の会議において、課題と方策を検討し、介護計画として立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録にご本人の言動や介護計画に沿った支援を記録しプランの把握・評価・実践へ役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の協力医療機関の往診や毎日のバイタルを常に観察し、個々の健康管理に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌、踊り等のボランティアといった地域資源を把握し、豊かな暮らしを楽しんでもらえる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による往診やホーム内の看護師による、健康管理等の医療連携体制が整っている。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師と連携を密にし、日々の健康状態や特変などを伝え、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院関係者と事業所看護師で情報交換し、主治医からの病状説明に同席し関係構築を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ経験はありませんが、今後重度化や終末期に対し 入居者様、ご家族様の意向を第一に考え、医療との連携を図りながら、全員で方針を検討していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや救急の知識を学び、緊急時には連絡網を整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1月に避難訓練を行い、地域の方々に参加を呼びかけその都度、改善に向けて取り組みを行っている最中です。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや羞恥心へ配慮した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせた方法で接し、常に入居者の希望に添える様心掛けてます。その中で全部は希望に添えない場合もあり、別の方法で対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が今まで生活してきた環境に近づける様に努力している。又一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容等も一人一人の希望に沿える様にしている。その方が自己決定出来る様支援に努めている。		

グループホーム みのもり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後にお盆拭きを手伝って頂いたり、時には職員と一緒に食事作りを行い、関係を深め、個々の能力に応じた対応をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人一人に合わせた量を提供し、副食もその人に合わせた提供(きざみ・1口サイズ)をしている。水分量はチェック表にて日々管理できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをして頂いている。御自分で出来ない方には、お手伝いをして口腔内の清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録の排泄チェックに記入し、排泄パターンを把握した上で、その人に合わせた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、何日も排便がない方には、その人に合わせた排便支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは職員が行い、毎日PMの時間帯に入浴を楽しまれている。今後、個々に沿った入浴支援を目指している最中です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の身体状況に合わせての臥床やソファでくつろいで頂く等の休息支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は、個人別に薬状ファイルに保管し、全職員に周知。又服薬時には、飲みこぼしが無いように職員が見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の出来る事や好きな事を把握し、自立への支援や楽しみを促している。又日々出来る事や好きな事を一つでも増やせる様に取り組んでいる最中です。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じ、戸外へ出られる場合は、施設周辺を散歩されている。その際、職員が見守りをして安全に徹している。遠方へは、行事として企画し、全員で外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金を持たれている方には、ご本人管理にお任せしております。又ご本人管理が難しい方には、ホーム金庫内にて保管し、買い物や受診時に引き出しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話を自由に掛けたり、御自分で掛けられない方には、ホームの方で電話の対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン等で光の調節に気を配り、音や室内の温度にも気を配り、居心地の良い環境を提供している。又リビング壁やテーブルの上には季節に応じた飾り付けがされている。浴室やトイレの共用部分についても、毎日清掃を実施し、快適に使用して頂ける様に心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、長テーブルが二つあり、席の配置は決まっているが、思い思いの場所で過ごされている。ソファも二つあり、ご自由にくつろげるスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族と相談しながら物品等の購入を検討し、又長年慣れ親しんだ家具を持ち込まれる方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用時の移動も出来る様に十分なスペースが確保されています。又リビングや廊下のスペースには、安全を考え極力、物を置かない様に配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり新中野

作成日：平成 26年 4月 3日

市町村受理日：平成 26年 4月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	20	馴染みの人や場との関係継続の支援	入居者様ひとりひとりの馴染みの場を把握していく	把握した「なじみの場」への外出ができるよう取り組んでいく	1年
2	35	地震の際の対策が不十分	事業所での地震時対応マニュアルの整備	地震時の対応を全職員が身につけられるようにしていく	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。